

## 長期化する訪問リハビリテーション利用者の現状と今後の課題

○板垣沙織<sup>1,2)</sup>，三村健<sup>1,2)</sup>，桑原至<sup>1,2)</sup>，奥田哲也<sup>1,2)</sup>，島田悟<sup>1,2)</sup>，山田尚子<sup>1,2)</sup>，丸谷温<sup>1,2)</sup>，池浦一樹<sup>1,2)</sup>，清水美穂<sup>1,2)</sup>，山崎美穂<sup>1,2)</sup>，山田早織<sup>1,2)</sup>，鶴巻恵理子<sup>1,2)</sup>，中川由子<sup>1,2)</sup>，北上守俊<sup>3)</sup>，荻荘則幸<sup>1,2,3)</sup>

- 1) 医療法人社団 らぼーる新潟 ゆきよしクリニック
- 2) 医療法人社団 らぼーる新潟 ゆきよし訪問看護ステーション
- 3) 社会福祉法人豊潤舎 新潟県障害者リハビリテーションセンター

【目的】当法人は、平成12年より、訪問リハビリテーション(訪リハ)を開始し、平成24年には訪問看護ステーション(訪看)を併設した。2つの事業所を合わせて、現在、介護保険360名、医療保険92名、計452名の利用者に対して、PT20名、OT14名、ST3名で訪問を実施している。今回は、当法人の利用者の特性を調査することで、今後の課題を見つけ、検討することを目的とした。【対象と方法】平成25年4月1日と平成26年4月1日時点の利用者状況を集計した。集計項目は、訪問を利用している全利用者の特性を調査した。【結果】①利用者は平成25年416人、平成26年452人と増加していた。②最も多い疾患は、脳血管障害であり、全利用者の33%を占めており、筋骨格系疾患、神経難病が共に約15%であった。③介護度は要支援が約2割、要介護が約7割であった。④訪問開始から現在までの期間が、5年以上利用者が全体の約20%であった。最長が平成26年4月時点で、13年10か月であった。【考察】年々、利用者は増加してきており、今後も長期に渡り、利用者の特性の偏移を調査していくことが必要であると考えられる。今回の調査によって、訪問リハの継続が長期化する利用者が多い結果となった。長期化する訪リハについて、今後の関わり方について検討する必要があると思われる。